

令和元年度中学生チャレンジテスト  
(第1学年・第2学年)結果について

柏原市教育委員会

## 1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2. 調査概要

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 調査日  | 令和2年1月9日(木)  |
| (2) 対象学年 | 中学校第1学年及び第2学年の全生徒                                      |
| (3) 調査内容 | 1年生:国語・数学・英語・アンケート調査<br>2年生:国語・社会AB・数学・理科AB・英語・アンケート調査 |

### ★調査問題掲載先

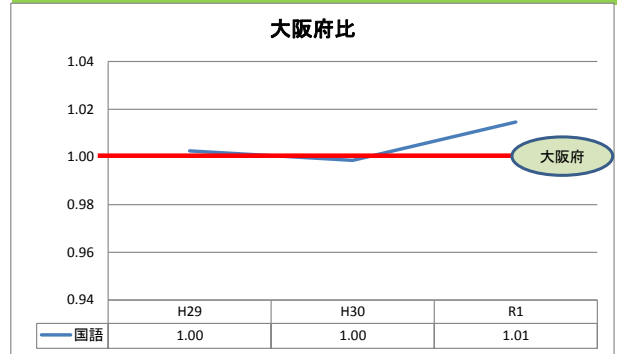
URL : <http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

### 3-1. 1年調査結果(国語)

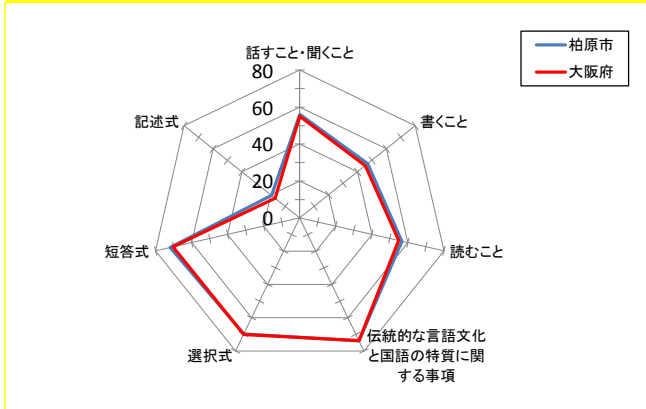
	平均正答率(%)
柏原市	65.9
大阪府	64.9

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	56.1	55.1
	書くこと	6	47.1	45.3
	読むこと	11	56.8	54.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	73.9	73.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—
	話す・聞く能力	4	56.1	55.1
	書く能力	6	47.1	45.3
	読む能力	11	56.8	54.9
問題形式	言語についての知識・理解・技能	18	73.9	73.8
	選択式	12	69.7	70.0
	短答式	18	72.0	70.4
	記述式	2	19.5	17.1

#### ◆中学1年生 過去3年間の比較(府比)



#### ◆領域別等のレーダーチャート

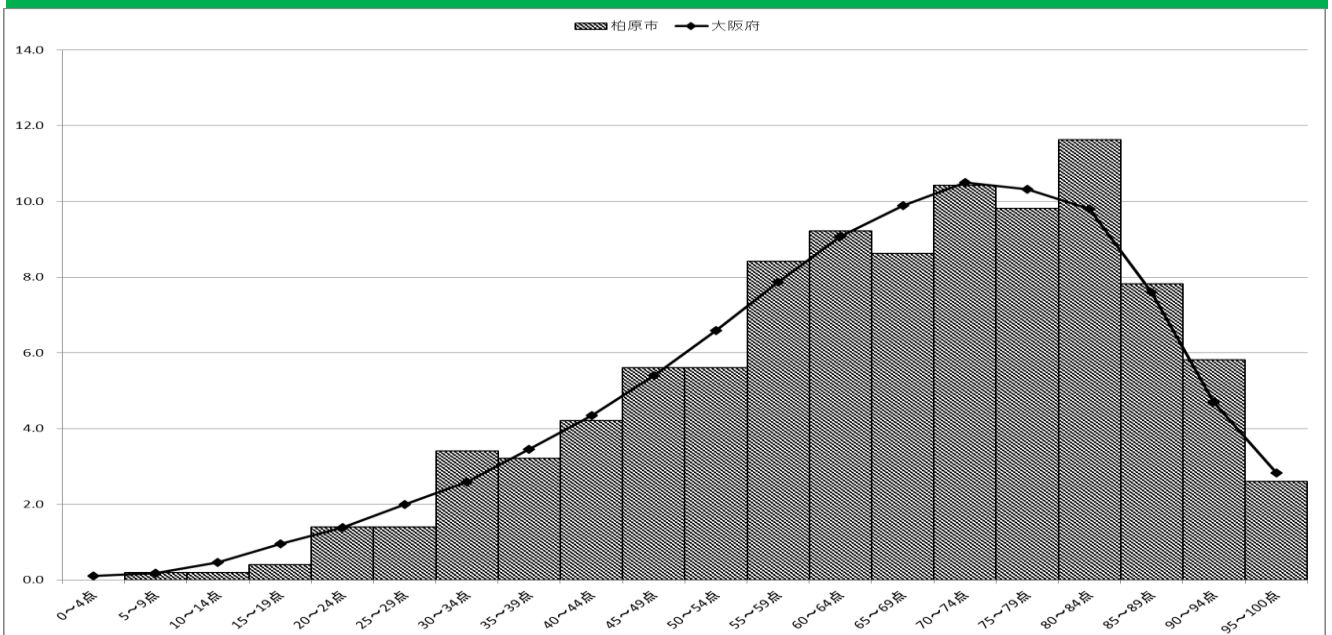


#### ◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等において、すべて大阪府を上回る結果となった。
- 昨年度大阪府を下回った「読むこと」において今年度は1.9%上回った。
- 得点別分布では、大阪府と比べて40点未満の生徒が少なく、80点以上の生徒が多い。
- 無解答率は、柏原市が5.7%、大阪府が6.9%という結果であった。
- ▼選択式問題は大阪府を下回る結果であった。
- ▼「記述式」問題の得点率が低い。

※ ○印:成果 ▼印:課題

#### ◆得点別分布の割合

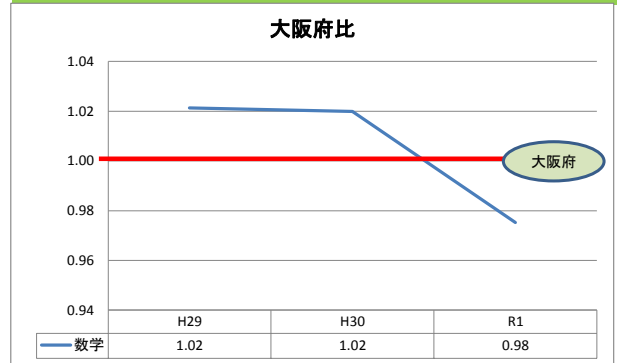


### 3-2. 1年調査結果(数学)

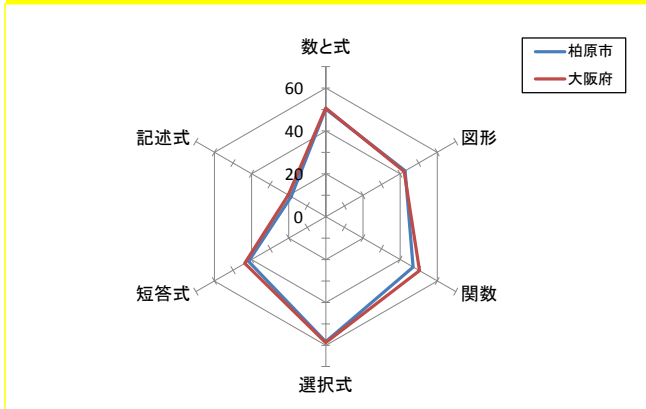
	平均正答率(%)
柏原市	47.6
大阪府	48.8

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	14	50.2	50.6
	図形	6	42.7	42.2
	関数	11	47.1	50.5
	資料の活用	—	—	—
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—	—
	数学的な見方や考え方	4	15.5	17.5
	数学的な技能	10	59.6	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	17	49.6	50.0
問題形式	選択式	14	58.4	58.7
	短答式	15	41.7	43.7
	記述式	2	18.6	20.2

#### ◆中学1年生 過去3年間の比較(府比)



#### ◆領域別等のレーダーチャート

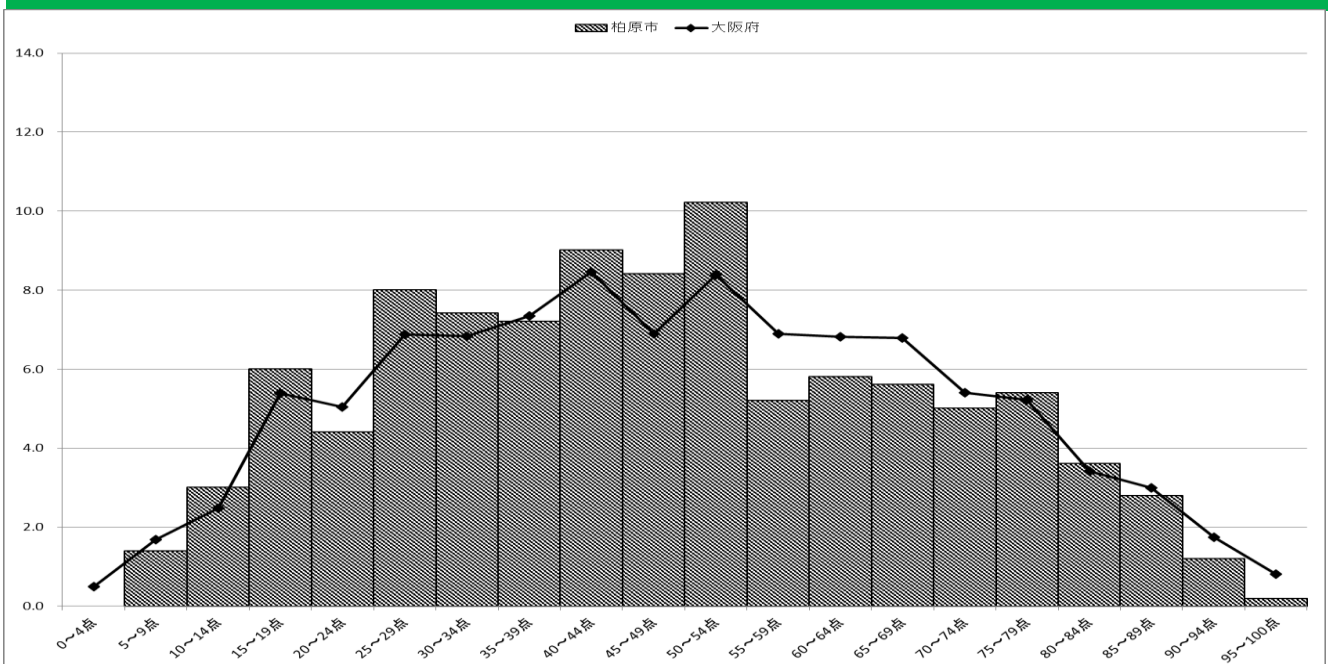


#### ◆特徴的な傾向

- 昨年度課題であった「図形」の領域は、大阪府をわずかに上回った。
- ▼平均正答率は大阪府をやや下回った。
- ▼得点別分布は、大阪府と比べて40点未満で上回り、80点以上で下回った。
- ▼「記述式」問題の得点率が低く、「関数」の得点率が大阪府と比べて低い。
- ▼無解答率は、柏原市が11.0%、大阪府が10.6%という結果であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

#### ◆得点別分布の割合

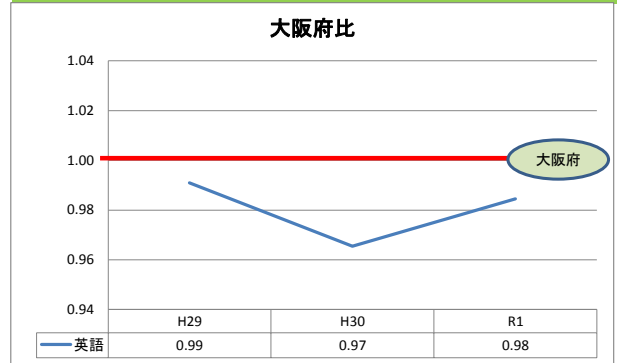


### 3-3. 1年調査結果(英語)

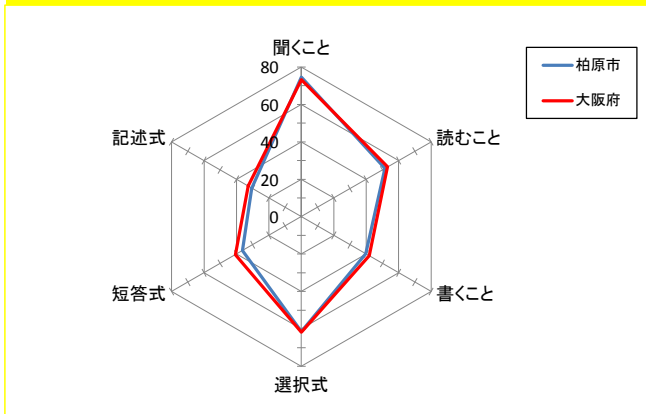
	平均正答率(%)
柏原市	56.6
大阪府	57.5

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	聞くこと	13	74.5	73.1
	話すこと	—	—	—
	読むこと	23	51.5	53.2
	書くこと	3	39.7	41.8
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—	—
	外国語表現の能力	2	38.8	41.1
	外国語理解の能力	30	59.7	60.6
	言語や文化についての知識・理解	5	48.6	48.7
問題形式	選択式	32	61.3	61.7
	短答式	3	36.4	40.7
	記述式	2	30.5	32.8

#### ◆ 中学1年生 過去3年間の比較(府比)



#### ◆ 領域別等のレーダーチャート

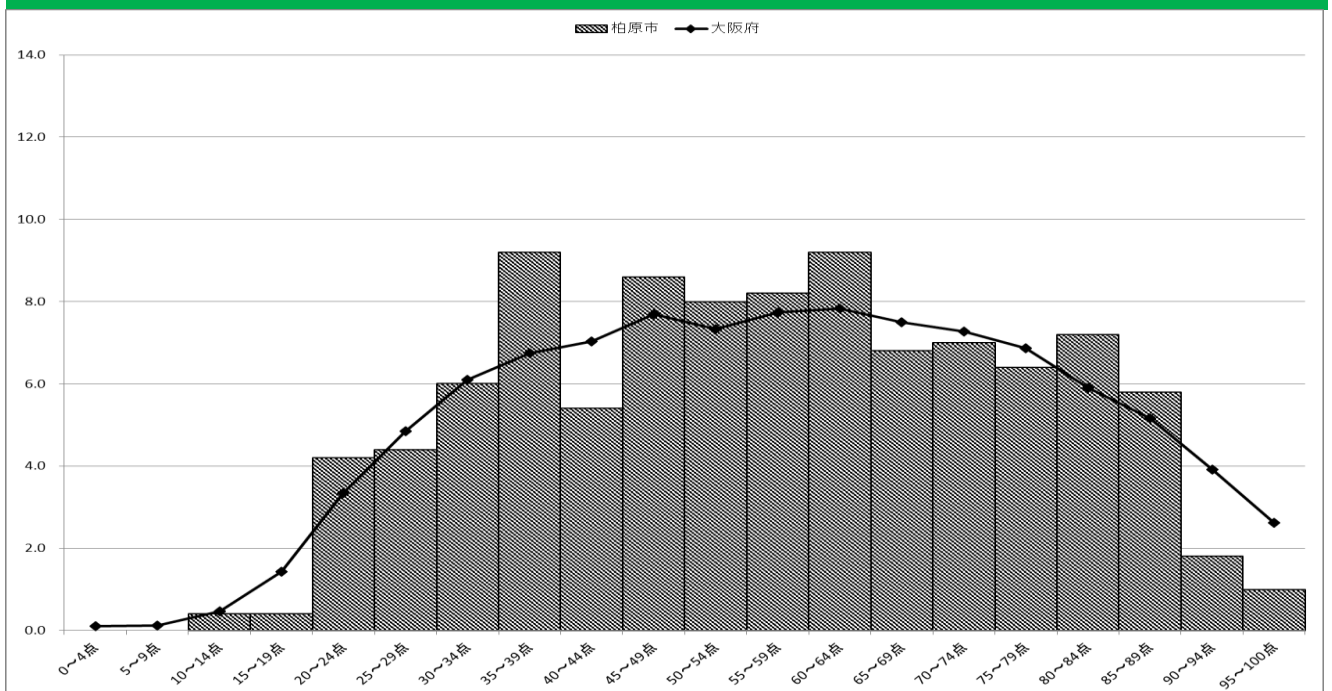


#### ◆ 特徴的な傾向

- 「聞くこと」の領域で大阪府を上回った。
- 得点別分布は、35点未満までは大阪府を下回っている。
- 無解答率は、柏原市、大阪府ともに3.2%と同値であり、昨年度8.2%から大きく改善した。
- ▼平均正答率や多くの項目において大阪府を下回った。
- ▼得点別分布は、大阪府に比べて、40点未満で上回り、80点以上で下回った。
- ▼「記述式」問題においては、以前から改善に向けて取り組んでいるが課題として残った。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

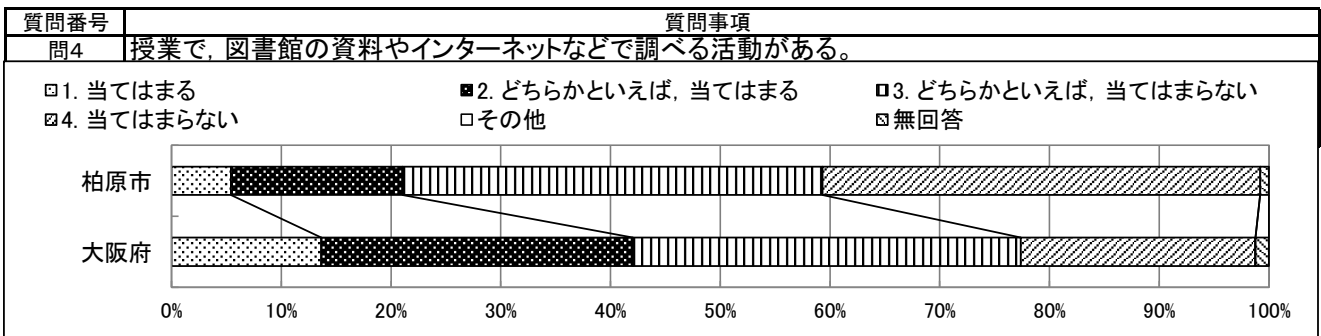
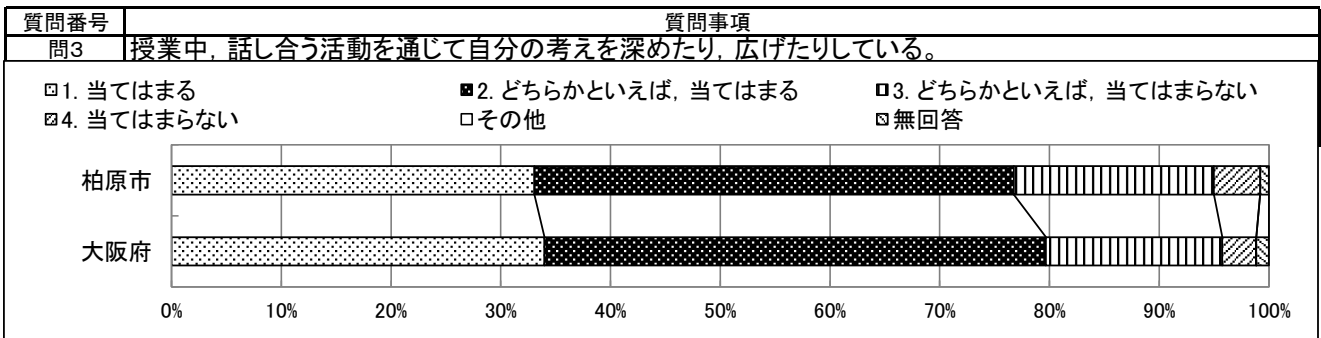
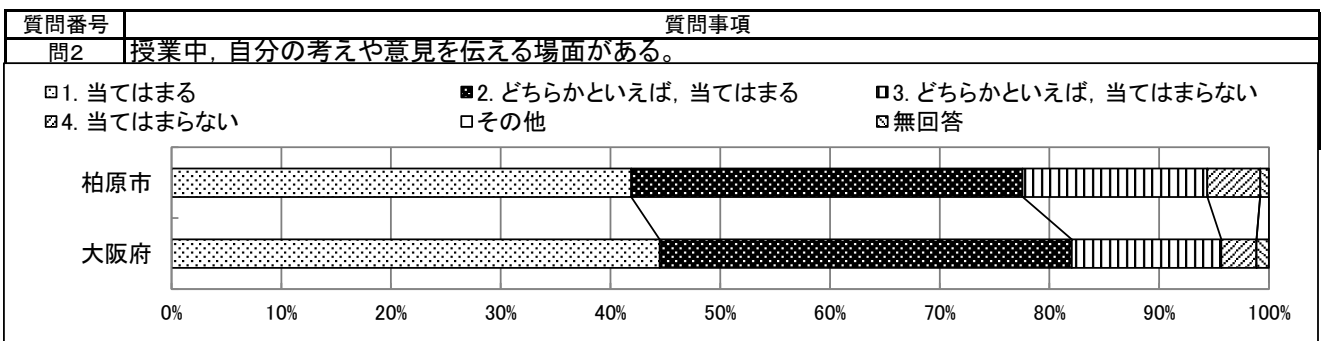
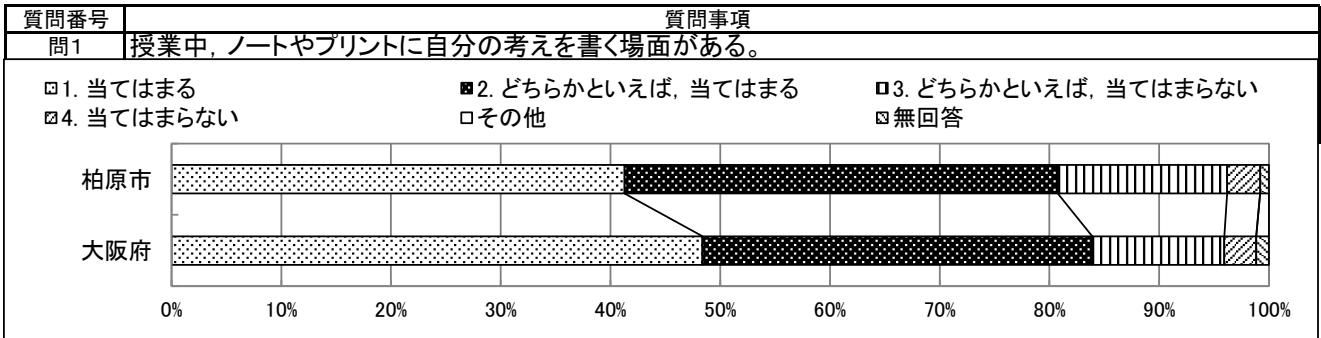
#### ◆ 得点別分布の割合



令和元年度中学生チャレンジテスト（1年生）

アンケート結果  
柏原市教育委員会

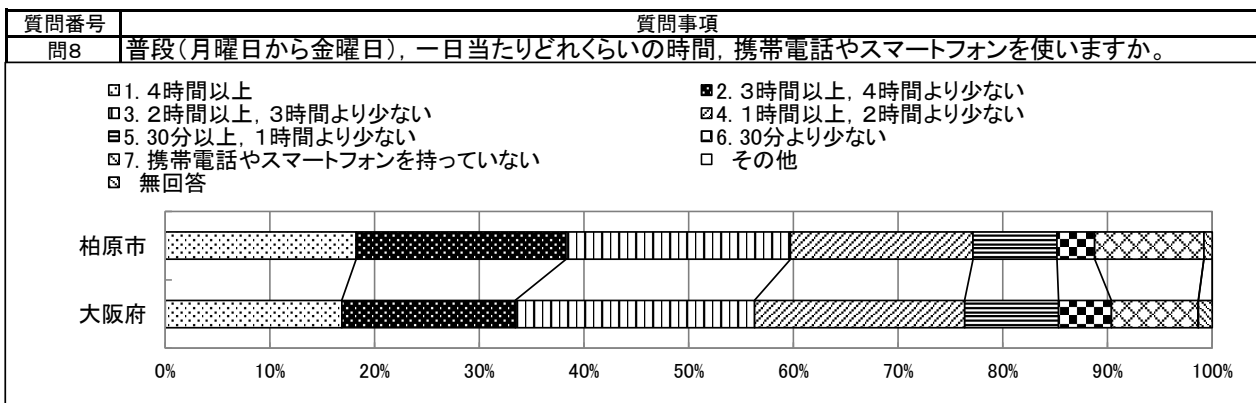
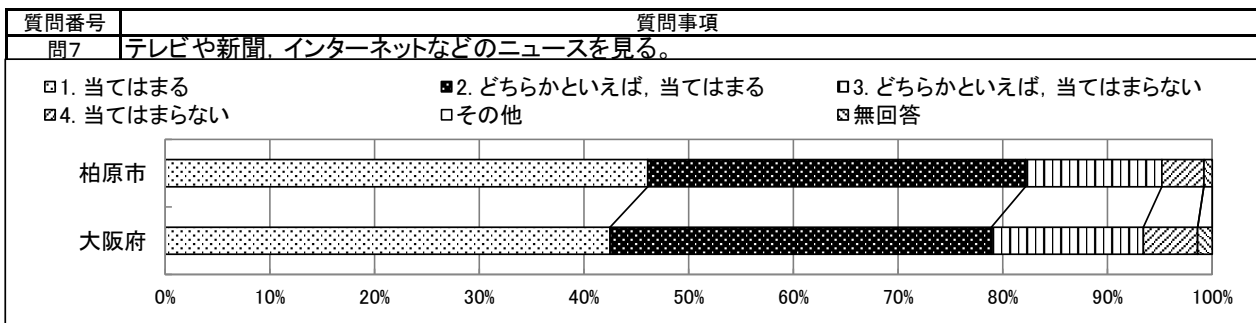
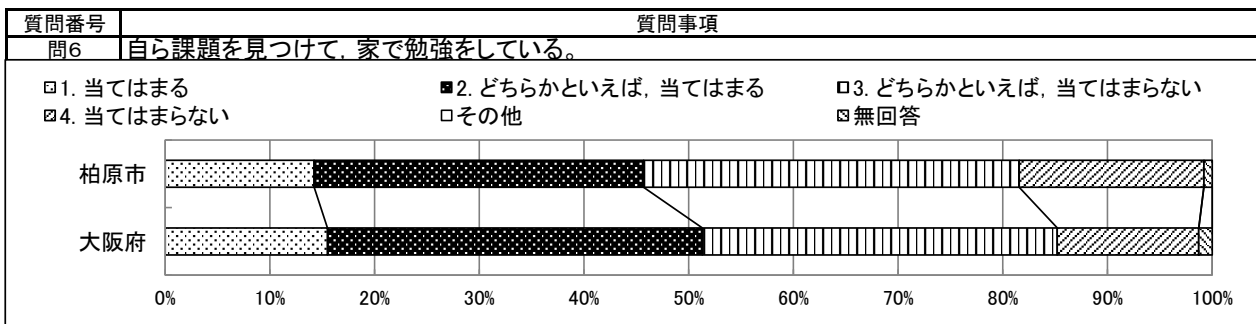
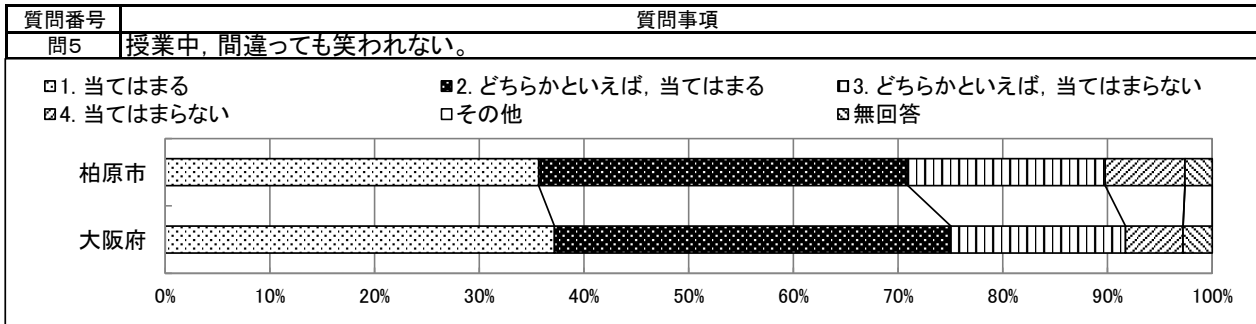
	生徒数
柏原市	499



令和元年度中学生チャレンジテスト（1年生）

アンケート結果  
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	499

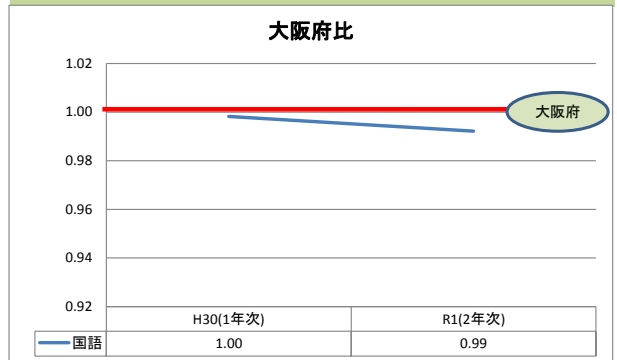


## 4-1. 2年調査結果(国語)

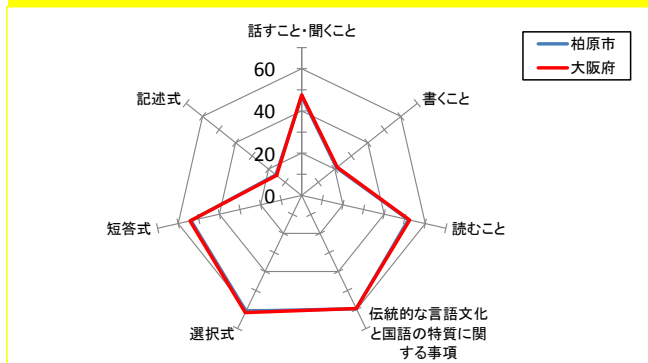
	平均正答率(%)
柏原市	50.7
大阪府	51.1

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	46.9	47.6
	書くこと	3	21.1	21.5
	読むこと	11	51.8	52.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	16	59.6	59.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	—	—	—
	話す・聞く能力	6	46.9	47.6
	書く能力	3	21.1	21.5
	読む能力	11	51.8	52.4
問題形式	言語についての知識・理解・技能	16	59.6	59.5
	選択式	11	60.9	61.6
	短答式	16	53.8	54.3
	記述式	3	15.6	15.2

### ★同一生徒集団の経年比較(平成30年度～令和元年度)



### ◆領域別等のレーダーチャート

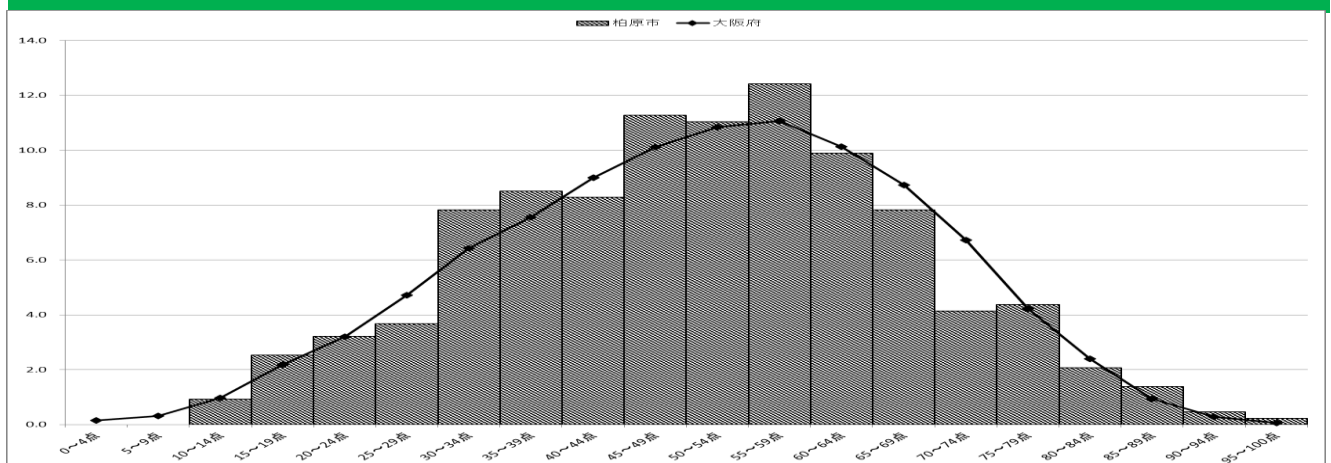


### ◆特徴的な傾向

- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び「記述式」の問題は大阪府を上回った。
- 得点別分布では、大阪府と比べて、85点以上の生徒が多い。
- ▼平均正答率は、大阪府をやや下回った。同一生徒集団の経年比較でもやや下降の結果となった。
- ▼「書くこと」の得点率が低い。
- ▼無解答率は、柏原市が9.8%、大阪府が9.0%という結果であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

### ◆得点別分布の割合





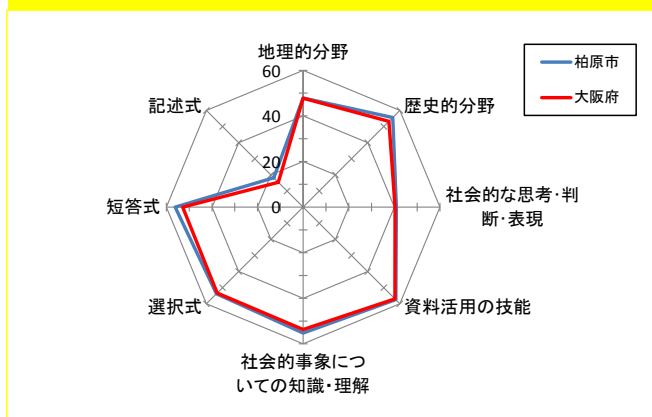
## 4-2. 2年調査結果(社会)

	平均正答率(%)
柏原市	51.4
大阪府	50.2

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	地理的分野	19	47.9	47.8
	歴史的分野	16	55.6	53.2
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	-	-	-
	社会的な思考・判断・表現	9	40.9	40.3
	資料活用 of 技能	4	57.4	57.0
	社会的事象についての知識・理解	22	55.3	53.7
問題形式	選択式	27	53.8	53.4
	短答式	6	56.2	52.9
	記述式	2	18.2	15.4

※平成30年度(1年次)の社会科の調査はございません。  
 ※令和元年度(2年次)については、A問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表しています。

### ◆領域別等のレーダーチャート

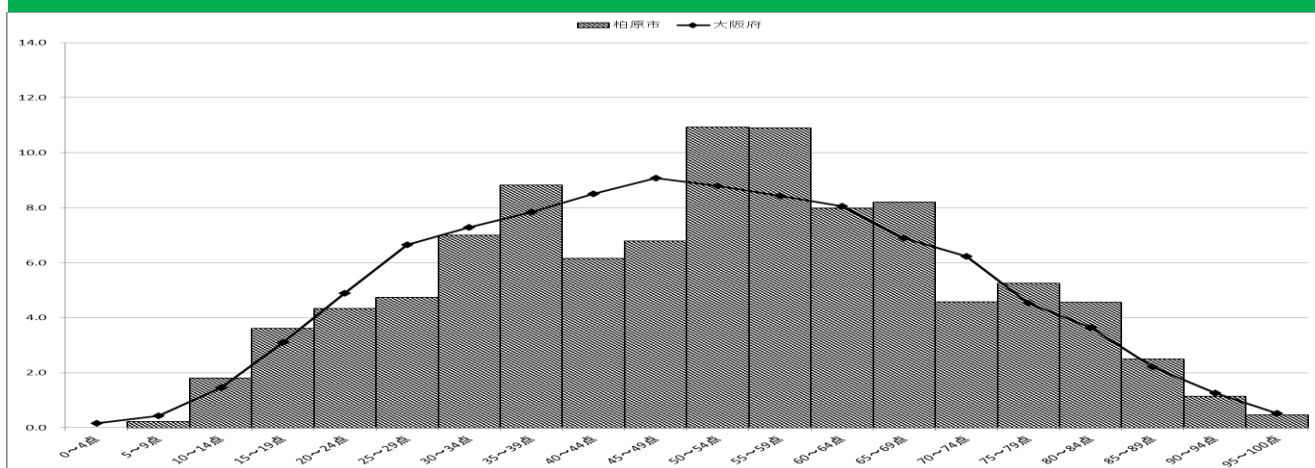


### ◆特徴的な傾向

- 地理的分野、歴史的分野の両領域で、大阪府を上回った。特に歴史的分野では大阪府を2.4%上回った。
- 「短答式」「記述式」で大阪府2%以上上回った。
- 得点別分布では、大阪府と比べて40点未満が少なく、80点以上が多い。
- 無解答率は、柏原市が5.6%、大阪府が5.9%という結果であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

### ◆得点別分布の割合

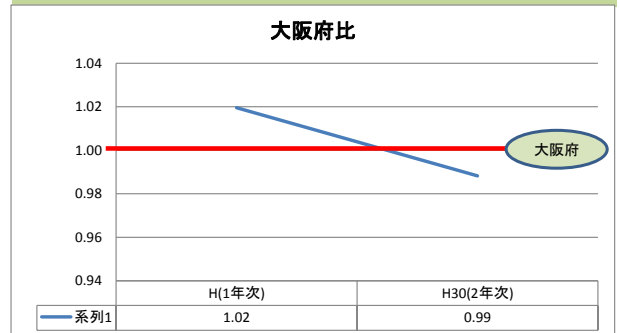


### 4-3. 2年調査結果(数学)

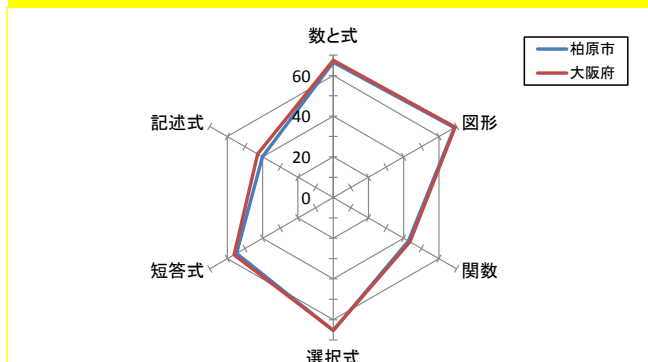
	平均正答率(%)
柏原市	58.9
大阪府	59.6

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	11	66.5	67.4
	図形	11	68.7	69.2
	関数	11	42.7	43.5
	資料の活用	—	—	—
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—	—
	数学的な見方や考え方	9	45.0	47.0
	数学的な技能	13	62.2	62.9
	数量や図形などについての知識・理解	11	68.1	67.7
問題形式	選択式	16	65.3	65.2
	短答式	15	54.8	56.2
	記述式	2	40.1	42.8

#### ★同一生徒集団の経年比較(平成30年度～令和元年度)



#### ◆領域別等のレーダーチャート

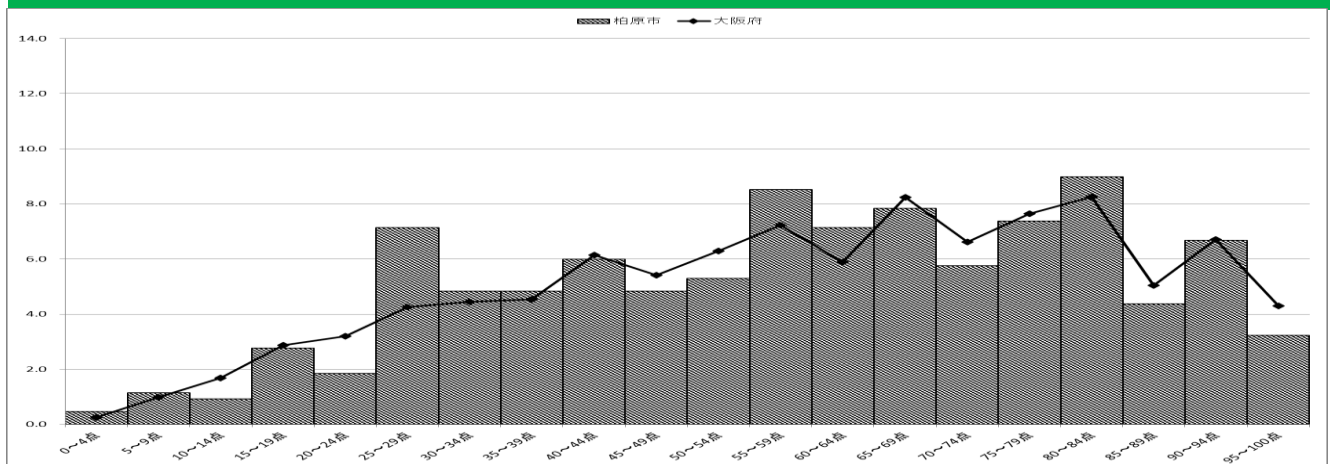


#### ◆特徴的な傾向

- 「数量や図形などについての知識・理解」及び「選択式」問題は大阪府を上回った。
- ▼平均正答率含め、ほとんどの項目で大阪府を下回った。同一生徒集団の経年比較も下降している。
- ▼「記述式」問題及び「関数」の得点率が低い。
- ▼得点別分布では、大阪府と比べて40点未満が多く、80点以上が少ない。
- ▼無解答率は昨年度よりも改善したが、柏原市が8.5%、大阪府が8.2%という結果であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

#### ◆得点別分布の割合



#### 4-4. 2年調査結果(理科)

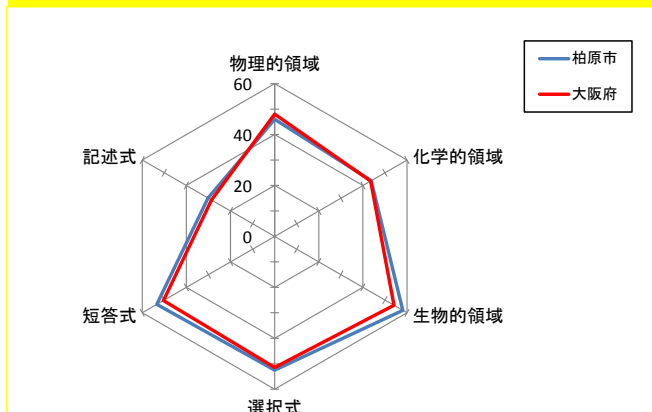
	平均正答率(%)
柏原市	51.0
大阪府	49.4

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	物理的領域	6	46.0	48.0
	化学的領域	13	43.8	43.5
	生物的領域	13	58.1	54.1
	地学的領域		※	
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	-	-	-
	科学的な思考・表現	14	41.4	42.0
	観察・実験の技能	2	57.8	55.4
	自然事象についての知識・理解	16	59.3	55.6
問題形式	選択式	21	52.5	51.5
	短答式	9	53.4	50.4
	記述式	2	30.2	28.6

※ 地学的領域については、B問題のみの出題となるため、非公表としています。

※平成30年度(1年次)の理科の調査はございません。  
 ※令和元年度(2年次)については、A問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表しています。

#### ◆領域別等のレーダーチャート

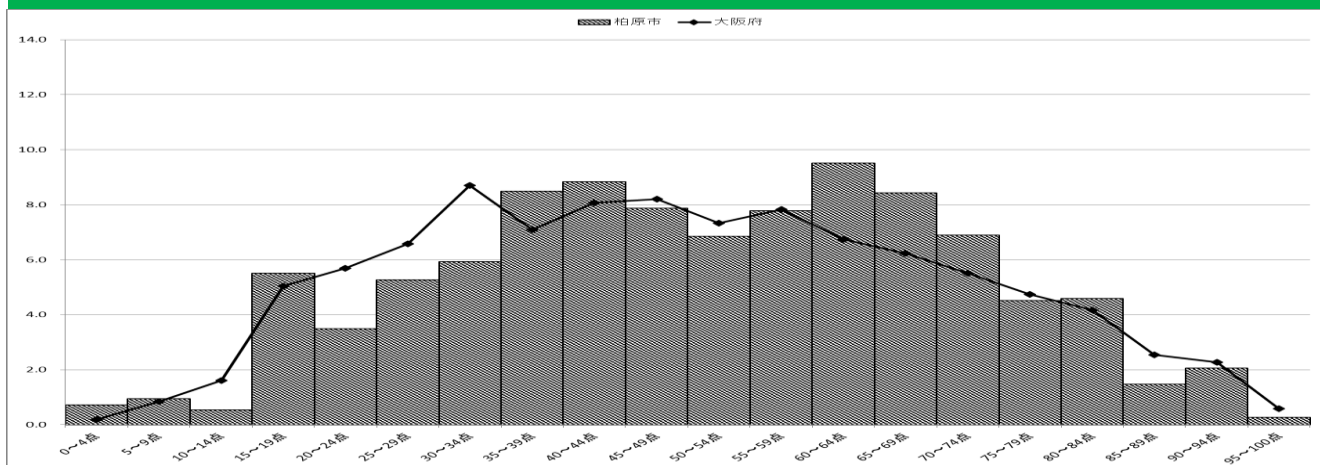


#### ◆特徴的な傾向

- 平均正答率及び多くの区分で大阪府を上回った。
- 「生物的領域」「自然現象についての知識・理解」では大阪府を大きく上回った。
- 得点別分布では、大阪府と比べて40点未満で大きく下回っている。
- 無解答率は、柏原市が6.4%、大阪府が6.6%という結果であった。
- ▼「物理的領域」「科学的な思考・表現」では大阪府を下回った。
- ▼「記述式」問題及び「化学的領域」の得点率が低い。

※ ○印:成果 ▼印:課題

#### ◆得点別分布の割合

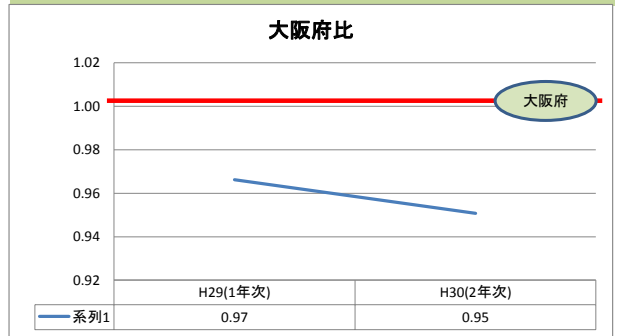


#### 4-5. 2年調査結果(英語)

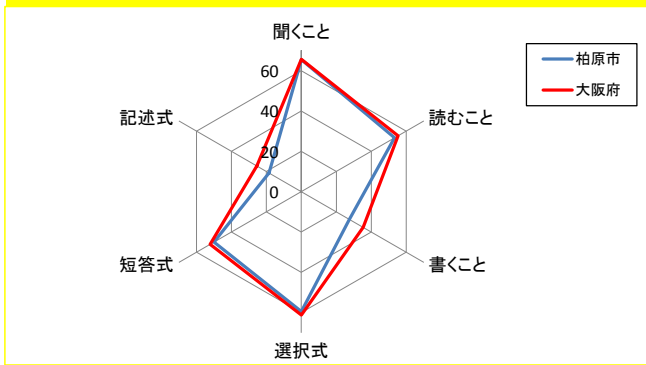
	平均正答率(%)
柏原市	52.2
大阪府	54.9

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	聞くこと	11	65.4	65.5
	話すこと	—	—	—
	読むこと	25	53.3	55.4
	書くこと	4	27.4	35.3
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	—	—	—
	外国語表現の能力	3	22.4	30.3
	外国語理解の能力	29	56.2	58.3
	言語や文化についての知識・理解	5	57.0	58.2
問題形式	選択式	31	59.3	61.2
	短答式	2	49.9	52.1
	記述式	4	18.6	25.5

#### ★同一生徒集団の経年比較(平成30年度～令和元年度)



#### ◆領域別等のレーダーチャート

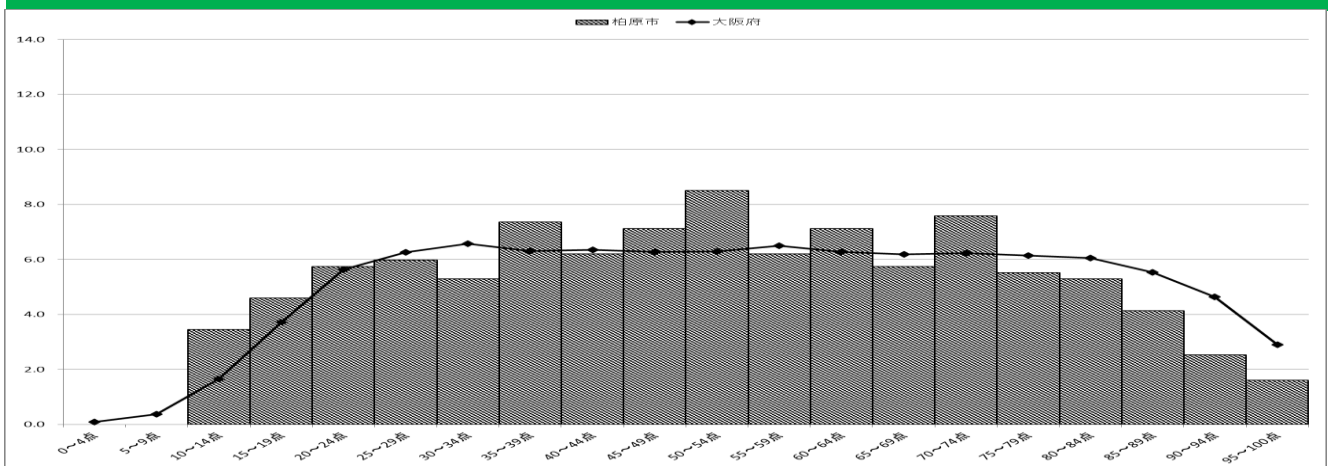


#### ◆特徴的な傾向

- 「聞くこと」は大阪府と同水準である。
- ▼平均正答率及びすべての区分で大阪府を下回った。
- ▼「書くこと」「外国語表現の能力」「記述式」の区分で大阪府を下回った。
- ▼得点別分布では、大阪府と比べて40点未満が多く、80点以上は少ない。
- ▼無解答率は、柏原市が4.7%、大阪府が3.9%という結果であった。

※ ○印:成果 ▼印:課題

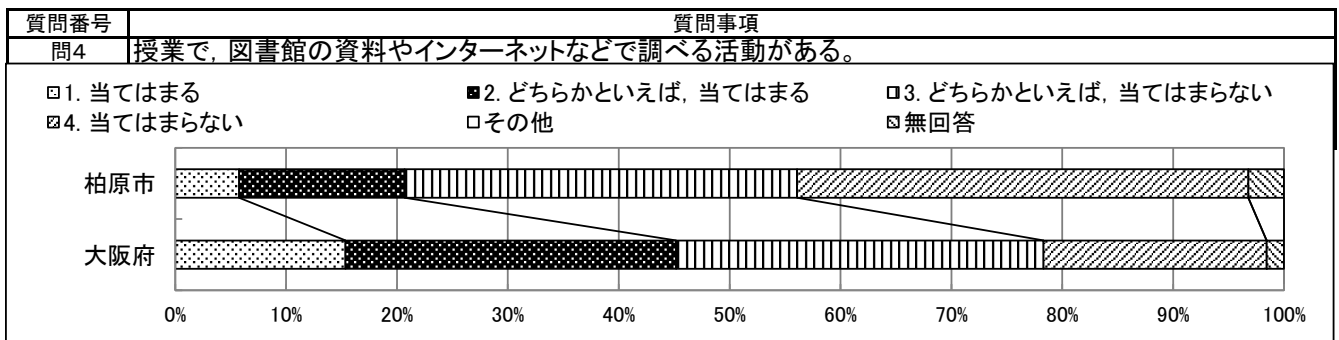
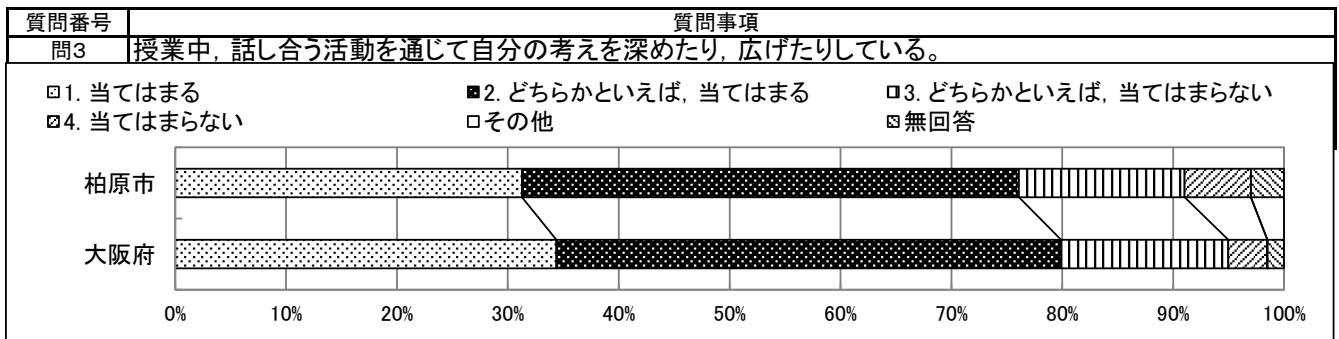
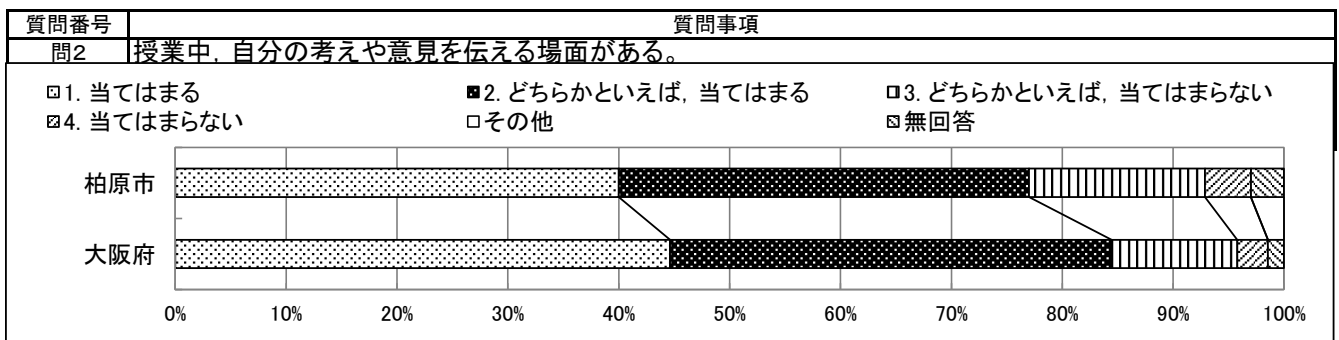
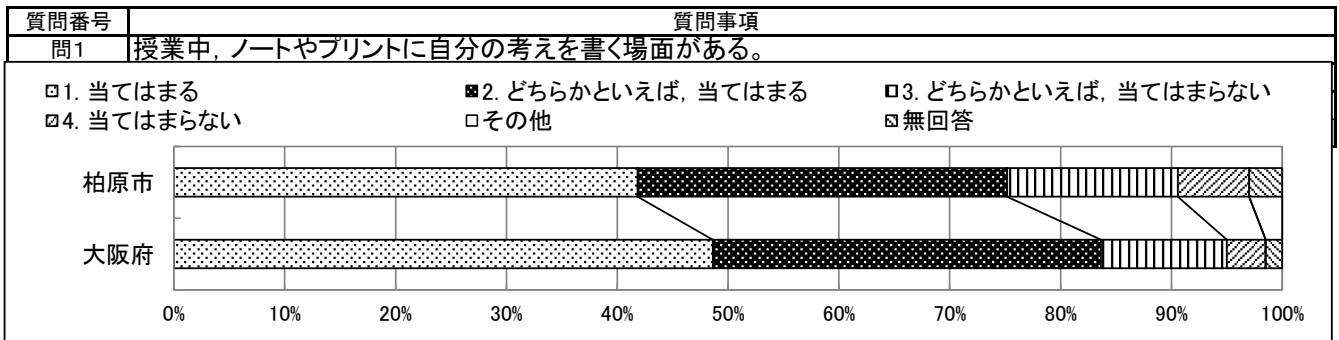
#### ◆得点別分布の割合



令和元年度中学生チャレンジテスト（2年生）

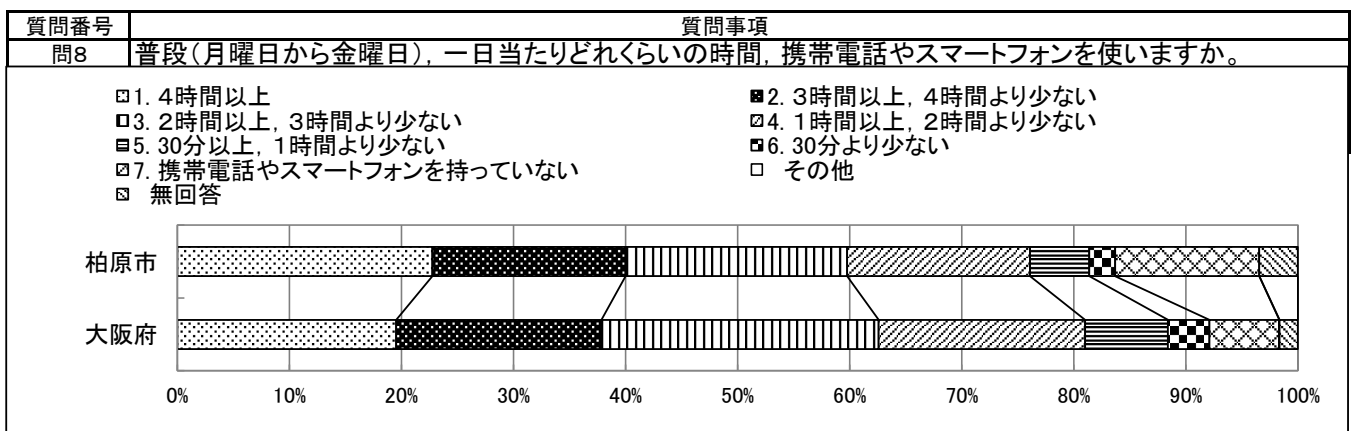
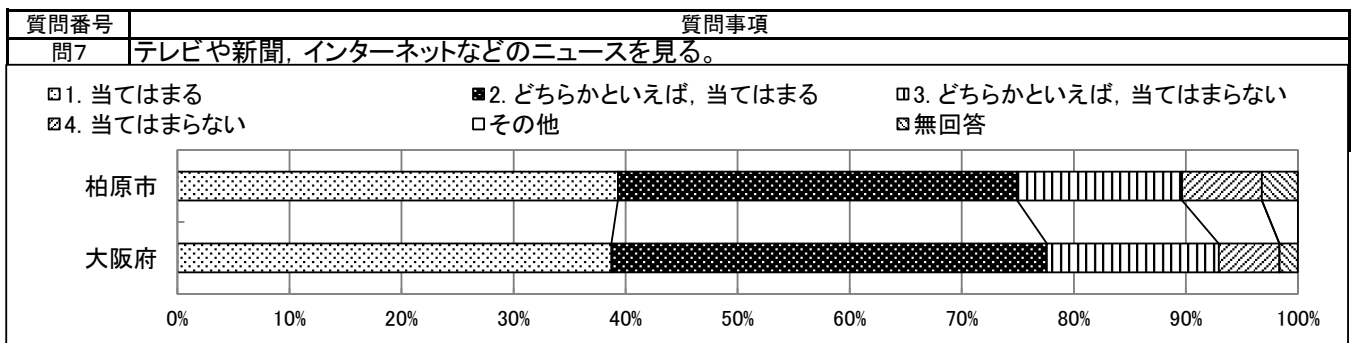
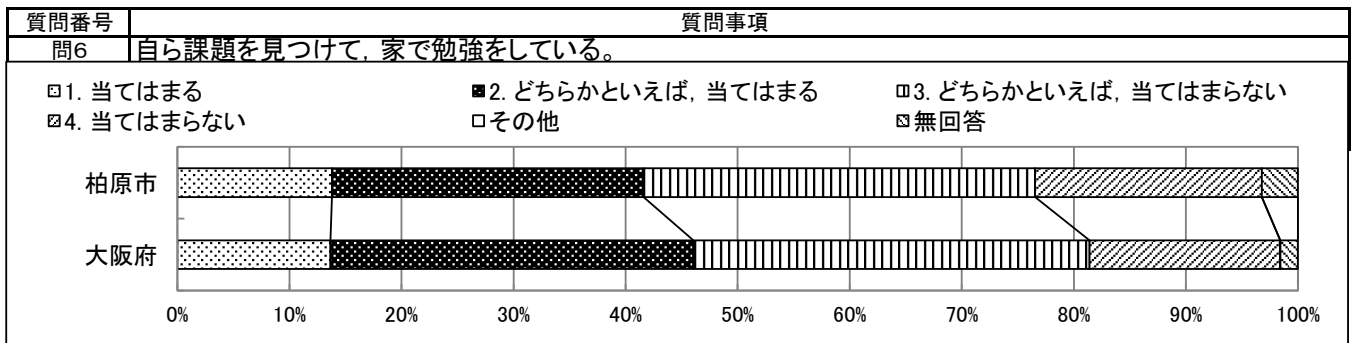
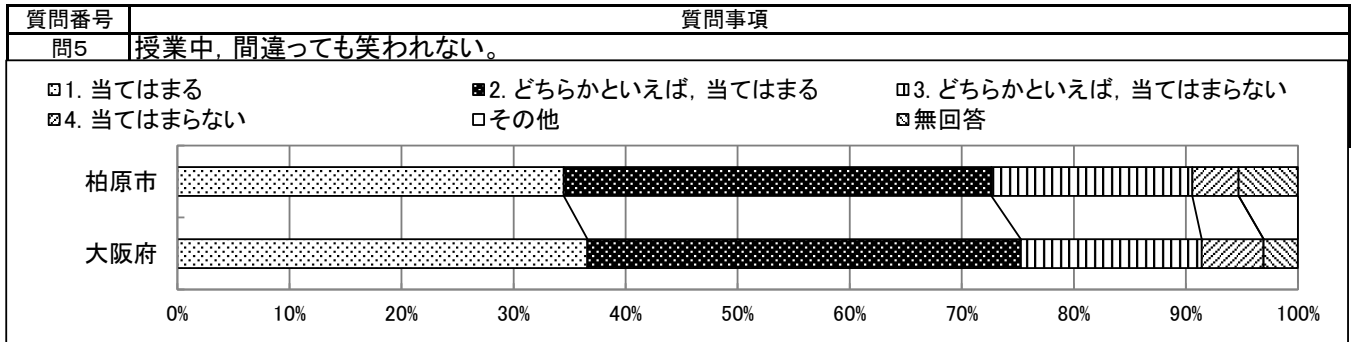
アンケート結果  
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	435



令和元年度中学生チャレンジテスト（2年生）

アンケート結果  
柏原市教育委員会



# 5-1-1. 国語科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

話すこと・聞くこと／書くこと

四 6 (2)	平均正答率	無回答率
柏原市	12.4%	23.0%
大阪府	13.5%	26.4%

正答

【例】(そうすれば同じ「梅一輪」という名前でも)和菓子職人の感性によって表現が違ふ(ということがよく伝わるといいます。)

北野さん 和菓子職人の感性によって、作る和菓子の色や形が違ってくるのですね。和菓子の世界はとても奥深いですね。

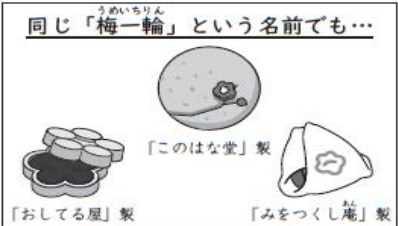
上松さん そうです。だから和菓子職人にとって、感性はとても大切なことです。感性を磨くために、私はふだんから身の回りのさまざまなものに対し興味を持って見るようにしています。そしてそこから感じるものを大切にしています。

北野さん 今日(きょう)は上松さんの「梅一輪」のお話をうかがったことで感性が大切だと思ふようになりました。これから私は、四季の自然や古典の作品などから自分が見るものを感じるものを大切にして感性を磨いていきたいと思っています。今日はお忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございました。

③ 北野さんは発表前の練習の時間に、北野さんと一緒に練習をしていた大竹さんからアドバイスをもらい「フリップ」Ⅱのかわりに次のような「差しかえフリップ」を作りました。北野さんは、大竹さんからのようなアドバイスをもらったのでしょうか。「大竹さんのアドバイス」中の「C」に入る言葉を、条件にしたがって書きなさい。

【差しかえフリップ】

同じ「梅一輪」という名前でも…



「このはな堂」製 「おしてる屋」製 「みをつくし庵」製

【大竹さんのアドバイス】

「このはな堂」の「梅一輪」だけではなく、「このはな堂」以外の和菓子屋で作られた「梅一輪」には他にどのようなものがあるのかを調べ、複数示してみてもいいでしょうか。

そうすれば同じ「梅一輪」という名前でも「C」ということがよく伝わるといいます。

条件1 「インタビュー」と「差しかえフリップ」の内容にもとづいて書くこと。  
 条件2 感性という言葉を使うこと。  
 条件3 十五字以上、二十五字以内で書くこと。

問題の概要は「アドバイスの空欄に入る言葉を書く」である。出題の趣旨は「伝えたい事実や事柄について、自分の考えを明確にして書く」である。無解答率が高く、正答率が低い問題となっている。話し言葉を読む力、前後関係から必要なことを書く力が問われる。このように、複数領域にまたがる問題に課題がみられる。各領域をバランスよく育むために、言語能力の育成が必要と考えられる。

## 5-1-2. 国語科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

話すこと・聞くこと

平均正答率等

四 6	平均正答率	無回答率
柏原市	15.2%	47.4%
大阪府	15.5%	48.4%

正答

[例]うまいかなくても保育士の先生の話聞き、姿勢や話し方を工夫して、園児と向き合った大野さんのあきらめない気持ちがよく伝わりました。

6 大野さんのスピーチのリハーサル後、特に心に残ったことを伝えることになりました。あなたならどのように伝えますか。【感想】中の□に入る内容をあとの条件にしたがって書きなさい。

【感想】

大野さんの職場体験のお話を聞いて、大野さんがよい体験をしたことがわかりました。

特に、

素敵がなお話だと思いました。本番も自信をもって頑が張ばってください。

条件1 【実際に話した内容】の大野さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。

条件2 大野さんが職場体験で学んだことに着目して、特に心に残ったことを書くこと。

条件3 「特に、」に続けて、五十字以上、八十字以内で実際に話すように書くこと。

問題の概要は、「スピーチを聞き、感想を伝える」であり、出題の趣旨は「相手の発言を尊重し、自分の考えをまとめる」ことをみとる問題である。無解答率は47.4%で、平均正答率は15.2%であった。本文の該当部分と、自分の意見をまとめて表現する力が求められる。授業において、目的や意図に応じて材料を集め、それを根拠として自分の意見を表現する指導が求められる。



## 5-2. 社会科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

平均正答率等

A 地理的分野
---------

2 (2) ②	平均正答率	無回答率
柏原市	10.7%	33.9%
大阪府	12.7%	29.3%

正答

[例] 鉄鉱石と石炭のほとんどを輸入に頼っており、それらは海上輸送されるので臨海部の港の近くに立地すると輸送に便利である。

② 製鉄の際に必要な鉄鉱石と石炭について、表Ⅰは2016年の日本の産出量と自給率、表Ⅱは2016年の日本の輸入量と海上輸送量を示したものです。

日本の主な製鉄所が臨海部に立地する利点について、表Ⅰ、表Ⅱから読み取れる内容をもとに、輸入・輸送の2語を用いて40字以上、60字以内で書きなさい。

表Ⅰ 日本の鉄鉱石・石炭の  
産出量と自給率（2016年）

	産出量（百万 t）	自給率（%）
鉄鉱石	0.0	0.0
石炭	1.3	0.7

表Ⅱ 日本の鉄鉱石・石炭の  
輸入量と海上輸送量（2016年）

	輸入量（百万 t）	海上輸送量 （百万 t）
鉄鉱石	130	130
石炭	190	190

（『日本国勢図会』により作成）

問題の概要は、「日本の主な製鉄所が臨海部に立地する利点について、鉄鉱石と石炭の輸入の面から書く」であり、出題の趣旨は「日本の主な製鉄所が臨海部に立地する利点について、表を活用して考察し、適切に説明することができる」ことをみとる問題となっている。無解答率は33.9%で、平均正答率は10.7%と、無解答率が高く、正答率が低い問題となっている。表から読み取れることの言語化、読み取ったことを既知の知識と結びつけて表現する力が求められる。

## 5-3-1. 数学科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

関数

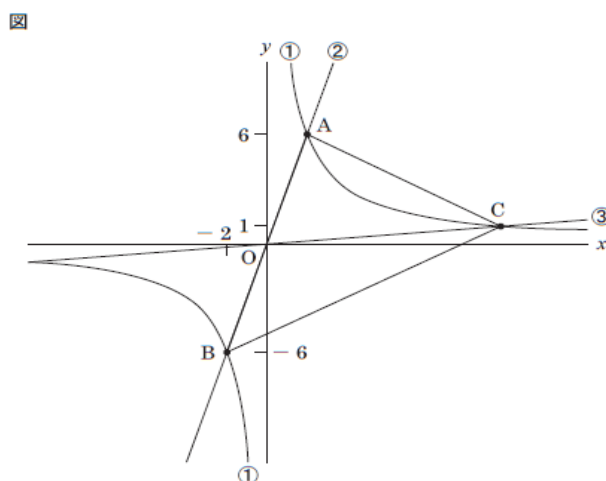
平均正答率等

9 (2)	平均正答率	無回答率
柏原市	2.4%	46.3%
大阪府	6.9%	41.7%

正答

70cm<sup>2</sup>

- 9 図において、反比例  $y = \frac{a}{x}$  のグラフ①上に、点A、点B、点Cがあります。点Aのy座標は6、点Bの座標は(-2, -6)、点Cのy座標は1です。また、グラフ②は、比例のグラフで点A、点Bを通り、グラフ③は、比例  $y = \frac{1}{12}x$  のグラフで、点Cを通っています。



次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 反比例のグラフ①について、比例定数  $a$  の値を求めなさい。
- (2) 点A、点B、点Cを結んでできる△ABCの面積を求めなさい。ただし、原点Oから(1, 0)まで、原点Oから(0, 1)までの距離をそれぞれ1cmとします。

問題の概要は、「点A、点B、点Cを結んでできる△ABCの面積を求める」ことであり、出題の趣旨としては、「比例、反比例のグラフの特徴を用いて具体的な事象について考えることができる」かをみとる問題となっている。数学の見方・考え方を使って、身につけた力を活用する能力が必要となる。授業において、問題の解にのみ焦点を当てるのではなく、その理由等を説明できるよう指導する必要がある。また、公式やきまりについても同様に、「解き方」の指導のみにとどまらないように留意する必要がある。

## 5-3-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第2学年】

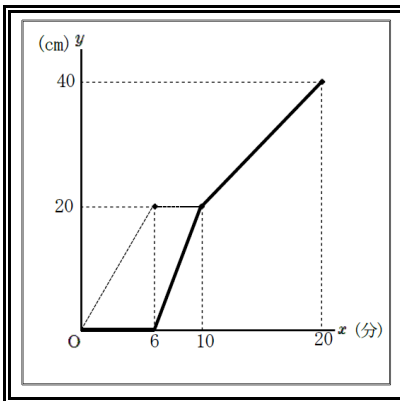
学習指導要領の領域等

関数

平均正答率等

7 (5)	平均正答率	無回答率
柏原市	18.7%	41.0%
大阪府	19.4%	41.7%

正答



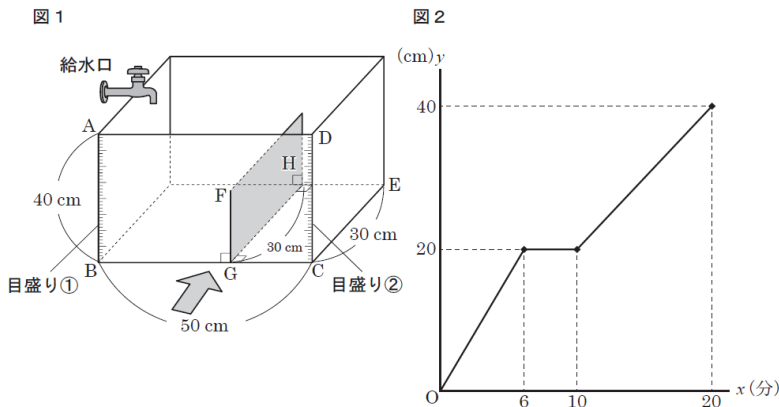
7 図1のように、 $BC = 50$  cm、 $CE = 30$  cm の長方形を底面とし、 $AB = 40$  cm の直方体の水そうが水平に置かれています。水そうの中には、水そうを区切るための長方形のしきりがあり、側面や底面に垂直に固定されています。しきりの辺のうち、 $GH = 30$  cm であることはわかっています。

水が入っていないこの水そうに、給水口から一定の割合で水を入れます。

水面の高さは、辺  $AB$  上の目盛り①、辺  $DC$  上の目盛り②に水面がふれているところでそれぞれ測るものとし、水を入れ始めてから  $x$  分後の水面の高さを  $y$  cm とします。

給水口から水を入れると、水は図1の矢印の方向から見てしきりの左側に入り始めました。図2は、水を入れ始めてから  $x$  分後の水面の高さ  $y$  cm を目盛り①で測り、その値が 40 cm になるまでの  $x$  と  $y$  の関係を表したグラフです。

水そうとしきりの厚さは考えないものとして、あとの問いに答えなさい。



- (5) 水を入れ始めてから、 $x$  分後の水面の高さ  $y$  cm を目盛り②で測り、その値が 40 cm になるまでの  $x$  と  $y$  の関係を表したグラフを、解答用紙の図3に書きなさい。

問題の概要は「目盛り②の変化の様子をグラフで表す」であり、出題の趣旨は「与えられた図やグラフの情報を適切に判断し、起こっている事象を、グラフに表すことができる」かをみとる問題である。概要を想像することは難しくない問題であるが、複数の条件を整理して問題を読み取る力や、読み取ったことを数学の見方、考え方を使って表現することに課題があると考えられる。授業の中で、ある程度まとまりのある文章を読み、問われていることがなにかを理解させる工夫も必要である。

## 5-4. 理科における課題の見られた問題について

学習指導要領の領域等

平均正答率等

B 化学的領域

3 (2) ④ i	平均正答率	無回答率
柏原市	18.0%	39.2%
大阪府	19.5%	35.6%

正答

[例] その金属より酸素と結びつきやすい物質と反応させる

- ④ 2人の会話中の下線部②について、会話のあと、2人は先生と<sup>いっしょ</sup>一緒に、実験で生じた酸化マグネシウムと炭素粉末をよく混ぜ合わせ、試験管に入れて加熱しました。しかし、酸化マグネシウムと炭素粉末は反応せず、マグネシウムを取り出すことはできませんでした。この実験について、ひろしさんとゆかりさんが先生と考察をしています。



ゆかりさん

私の予想とは違い、酸化マグネシウムは炭素を用いて還元できませんでした。これは、どうしてでしょうか。



先生

還元の色くみを、思い出してみはどうでしょう。



ひろしさん

還元とは、酸化物が酸素をうばわれる化学変化ですよ。つまり、金属の酸化物から酸素をとり除いて金属を取り出すには、② 必要があるということですね。



ゆかりさん

ということは、炭素を使ったとき、酸化銅は還元できて酸化マグネシウムは還元できなかったことから、銅、マグネシウム、炭素を酸化されやすい順に示すと、③ となるということですね。



先生

その通りです。実験は予想通りにいきませんでした。そこから新しい発見がありましたね。

(i) 考察中の ② に入る適切なことばを、金属・物質の2語を用いて

30字以内で書きなさい。

問題の概要は「金属の酸化物から金属を取り出す方法を書く」である。出題の趣旨は「金属の酸化物から金属を取り出す方法について考えることができる」かをみる問題である。多くの教科と共通するとおり、本問も複数の情報を読み取り、既知の情報と結びつけて記述する力が問われる問題となっている。授業の中では、科学的な思考・表現を育む工夫として、知識をまとめる活動や、まとめたものを表現する活動が必要である。

## 5-5-1. 外国語(英語)科における課題の見られた問題について

【第1学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

読むこと

9 (6)	平均正答率	無回答率
柏原市	23.9%	29.1%
大阪府	38.5%	24.4%

正答


[例] 学校の図書館では、朝授業前に宿題をしない。

- ㉑ ユキ (Yuki) は留学先の学校の図書館 (school library) の【ポスター】を見ながら、ザック (Zac) と話しています。次の【ポスター】と【会話文】を読んで、あとの【質問】に答えなさい。

【ポスター】

**Let's read books at the school library**

Library \*Hours

*Before class	7:40 ~ 8:10	On Tuesday and Friday	
Lunch time	12:00 ~ 13:00	On Monday and Thursday	
*After school	15:30 ~ 17:00	Monday ~ Thursday	

(注) ~ hours (～) 開館時間      before class 授業前  
after school 放課後

【会話文】

Yuki: Hi, Zac! It's eight ten now. Do you come to school ① at this time \*every day?

Zac: Good morning, Yuki! Yes. But I come to school at seven forty on Tuesday.

Yuki: You come to school very \*early on Tuesday.

Zac: I go to the school library on that day. Yuki, ② (            )!

Yuki: Oh! The school library \*is open at seven forty.

Please \*help me to \*do my homework on Tuesday morning at the school library.

Zac: I'm sorry. We \*can't do our homework at the school library before class. It's our school \*rule.

Yuki: Oh, I see. How about lunch time on Tuesday?

Zac: The school library is not open at lunch time on Tuesday, and I practice basketball after school every day and on Friday morning. How about ( ③ )?

Yuki: OK. Thank you.

(注) every day 毎日      early 早く      is open 開館している  
help ... to ~ ...が～するのを手伝う  
do ~ homework ～の宿題をする      can't ~ ～できない  
rule きまり

- (6) ユキが留学している学校の図書館について、学校のきまりとなっているのはどんな内容ですか。日本語で答えなさい。

問題の概要は「ポスターとユキとザックの会話を読み、学校の図書館のきまりについて、内容を日本語で書く」であり、出題の趣旨としては「会話文を読み、内容を把握し、理解しているか」を問われる問題である。会話文の中の1文を読みとることができれば答えられる問題であるが、無解答率が一番高く、正答率が一番低い問題となった。複数の資料、話題から、必要な情報を読み取る力が求められる。授業では逐語訳に終始せず、内容の関連や文脈から概要を把握させることが必要である。

## 5-5-2. 外国語(英語)科における課題の見られた問題について

【第2学年】

学習指導要領の領域等

読むこと
------

平均正答率等

9 (3)	平均正答率	無回答率
柏原市	7.1%	36.1%
大阪府	11.2%	30.2%

正答

[例] 電子メールならいつでも受け取れるから。

Eddy: I \*wrote it.

Clerk: Please give it to me.

Eddy: [ C ]

Clerk: Thank you. You didn't write one thing.

Eddy: What?

Clerk: Here. We will tell you when we find your bag.

What time do you want to get \*contact from us?

Eddy: \*Anytime. I can get your \*e-mail anytime.

Clerk: OK.

【遺失物届】

**Lost Property Report**

① \*Date. November 4    ② Write your name. Eddy \*\*\*\*

③ What did you \*lose? A brown bag. A picture of a dog on it.

④ When did you lose it? About 2 o'clock on November 3

⑤ Where did you \*ride the bus?    Where did you get off the bus?  
At Akane Station                      At City Library

⑥ Contact Phone : 0\*\*-\*\*\*\*-\*\*\*0

⑦ Contact E-mail : Eddy@\*\*mail.com

⑧ Which contact do you want?    Phone E-mail

⑨ What time can you get contact from us? \_\_\_\_\_

- (3) エディは【遺失物届】で記入しなかった項目が1か所あります。【会話文】を参考に、エディがその項目を記入しなかった理由を、日本語で書きなさい。

本問では、「会話文と遺失物届を読み、エディが遺失物届の1箇所を記入しなかった理由を日本語で答える」ことをみとる問題となっている。無解答率は大阪府と比較して5%以上高く、正答率も1割以下となっている。日常で知識を活用する場面の設定や意欲の掘り起こしが重要となる。授業では、状況によって解釈の異なる文章に触れる等、文脈を読み取る力の育成が求められる。

## ○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・チャレンジテストの問題や結果をもとにした授業改善についての研修を進める
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
  - ・経験年数の多い先輩教員の授業参観及び、協議に参加（年3回）
  - ・学校公開にて、授業の参観及び取組み報告会に参加（年3回）
- ・「書く力の育成」「書くための読む力の育成」をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・携帯電話等の取扱いについて、リーフレットを作成し、保護者にも啓発を行う。

## ○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・特にチャレンジテストの分析結果を、授業改善や各取組みに活かす
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・チャレンジテストの分析結果について教科会等で話し合い、授業を充実させる（特に英語科）
- ・知識を組み合わせて資料から読み取れることを増やしたり、考えたことを目的や意図に応じて工夫して表現し、交流させる活動等を充実させる
- ・具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動を充実させる
- ・すべての子どもたちが主体的に取り組める課題を設定する
- ・知識や技能を日常生活の中で活用する場面を複数回設定できる計画を策定する
- ・低得点域の底上げと同時に、高得点域の伸長を図る

## ～ご家庭にお願いすること～

### ①基本的な生活習慣の定着

- 早寝早起きを習慣づけ、生活にリズムをつくる
- 体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- 朝食をとるよう促す

### ②家庭学習習慣の定着

- 発達段階に応じて家庭学習時間のめやす（学年×10分）を決める  
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- 毎日の宿題ができているかを確認する

### ③スマートフォンやゲーム等のメディアについてのルールづくり

- テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- 携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する